

月刊

## 語学のススム新聞

8月号

## Rie's column~



皆さんこんにちは、スタッフの Rie です。雨期があつと言う間に終わり、暑い日が続いたと思ったらもう8月ですね。そんな暑い平日の日に友人達と鎌倉に行って来ました。まずは午前中、横須賀線の鎌倉の次の駅、逗子に行き、海にせり出すサーファーズというレストランでランチしました。サーファーズは、逗子駅から海に向かって商店街をずっと歩き、ビーチに着いた所で、右側の海沿いをしばし歩いた絶好のオーシャンビューレストランです。本当に海の上という感じのグレートロケーションですが、名前の通り、サーフボードが置いてあったり、すぐ側ではウインドサーフィンや SUP--Stand-up paddle Surfing(サップ)の方達が優雅に波に乗るのが見れて、最高の気分になれます♪もうそこは

ハワイかカリフォルニアのビーチか?という感じです。お料理もハンバーガーやサラダがとても美味しく、カリフォルニア風メキシカン料理も楽しめます。ランチも良いですが、夕暮れ時の海を見ながらのディナーも最高です。

(冬場は時間短縮

になっています)逗子駅から歩くと結構ありますので、2,3人で行くのでしたらタクシーに乗った方が良いです。私達も暑さに負け、3人でタクリました。笑 ゆったりとランチした後、今度は外国気分から「和」に移し、「いざ鎌倉!」(本来の意味とは違いますが)まずは北鎌倉に行き、以前から行ってみたかった建長寺に行きました。いやあ、暑かったです!この日は最高気温を記録した猛暑の日で、お水を飲み飲み境内を見て回りましたが、とても落ち着く良い所でした。あちらこちらに重要文化財があるのですが、驚いた事に、入り口にはお寺の方がいらっしゃいますが、境内にはほとんどセキュリティの方も居ないのですよね。変な所に気がつく私ですが、外国ではありえないかな?なんて思いながら歩いてました。暑さでくらくらしながらも、庭園に着いた時は、なんとも良い風が吹き抜け



ていて、御池を見ながら、しばし休憩。こちらは禅宗の寺院ですので、座禅も組めますし、写経も出来るのですよね。この暑さではどちらもやる気になりませんでした(笑)きっと貴重な体験のはずです。事実、この日の建長寺は日本人より外国人の観光客の方が多かったです。皆さん靴を脱ぎ、ビニール袋に入れて持って歩くと言う事にも抵抗がないようです。色々なお寺にまわっているのかもしれませんが、そして、静寂を楽しみながら、お寺の床を噛みしめるようにぎしりぎしりと歩いていらっしゃいました。小学生のお子さんを連れていた方もいらっしゃいましたが、子供達も大声で騒ぐ事なく、大人と同じようにしてました。When in Rome, do as the Romans do (郷に入れば郷に従え)ですね。 Rie

## 今月のフレーズ

鎌倉に行って気がついた事は本当に外国人が多いと言う事。でも、看板や案内は英語で書かれていても英語を話す方が少ないような気もしました。事実、バスに乗った時に、ティーンエイジャーの娘さんを連れて(多分)アメリカ人の親子連れが、降りる時になにやらバスの運転手とあれこれやりとりして、なんか親子が納得してなかったようなので、一旦はバスを降りた私ですが、乗り直して間に入り、“Excuse me! Where are you going?”と声をかけると、喜びで飛びかかんばかりに”Big Buddha!!!”と異口同音してました。笑 (Great Buddha とも言います) 思ったのですが、たとえそんなに英語力がなかったとしても、ちょっと声をかけるだけで、外国人の観光客の方達はとても安心するし、日本人に対して良い印象を持ってくれると思うのですよね。May I help you? / Can I help you? / Do you need any help? / Where are you going? / Where do you want to go?

私が良く使うのは”Can I help you at all?”です。この最後の at all は「少しでもお手伝いできますか?」的な印象を与えますので、もしかしたらヘルプは要らないかもしれないけど、何か出来ますか?と言う感じで、押し付けがましく感じないからです。その親子はNo. 1バスに乗るのはわかっていたみたいですが、鎌倉の事をあまり知らない私に”Where is the bus stop for the No. 1 bus?”といきなり聞いて来たので、”I’m not familiar with this area. Let’s find it!”「一緒に探しましょう♪」となりました。バスの中ではほとんど口を聞いてなかった母娘親子が、別れる時は二人で丁寧に敬礼をして、大して何もしなかったのですが、とても良い気分になった私です。「まだまだ私の英語なんて、..」なんて思っている生徒さんもしらっしゃるかもしれませんが、困っていそうな外国人の方を見たら、勇気を出して声をかけてみましょう!

Rie

## 元気が出る!! 今月のおすすめの一冊。



みなさんこんにちは! もう最近では亜熱帯化してしまった感のある日本ですが、8月と言えば、花火大会に盆踊り、日本の風物詩は毎年受け継がれていますよね。先日7/29実家の大和市で開催された「神奈川大和阿波おどり」、見に行ってきた。そもそもアウトローな性格の私は、みんながやることはしない…、みんなが行くところにはいかない…、そんな変な人なんです(笑) そんなわけでお祭りとは無縁だったんです。そんな私が見えに行ったのかと言いますと、当校の生徒Hさんが「鐘」奏者として出演されると聞いたからなんです。そうです、あの一番目立つキンキン、キンキン鳴らすやつです。けれど、その生徒さんの雰囲気は静謐・寂靜。どう考えてもお祭りを想像できなかつたんです。それで逆に、本当かなあ?という興味が湧いたんです。で、どうだったかと言いますと、Hさんは、すごーく格好良かったです。たくさんの連がある中でも、和風な感じが一番よかったです。連は「都築徳座連」という連ですので、ご興味のある方はお問い合わせして見てくださね。

さて、阿波踊り初心者なのですが、各チームをしっかりと見てみますと、いろいろなタイプの連があって、全部、全然違うことに驚きました。中には、他の人たちと明らかに体つきが違うアスリート軍団のような人たちがいるなあ…なんて思って、調べてみると、「ちどり連」という厚木基地の海上自衛隊の方々だったんですね。俊敏な手さばき、軽やかな足さばき、見得を切るような笑顔、なぜかポジションチェンジでは猛ダッシュ!!! キレキレなおじさんたちに、近くで観ていた女子2人組は熱い視線。

「こんなに暑いのに、あのおじさんたち…♡、息切れもしないでダッシュ



で戻って行って…♡♡なかなかできないよね♡♡♡ カッコいいよね♡♡♡♡」僕は自分のお腹の出っ張りを見て、ため息をひとつついて、その場から避難しました(笑) まあ…、嫉妬ですけれどもね。ただ一方では「正直、あの人たちだったら、国の防衛を任せられるよなあ。いつも僕たちを守っていただいて有難うございます!!」って感謝しましたね。ところで、夏といえば、やっぱり海じゃないですかね。ただ、江ノ島は若者でごった返して海水もドブ臭いのでNG、鎌倉由比ヶ浜は人が多すぎてくつろげません。近場で、交通の便も良く、のんびりできて、綺麗な海ならやっぱり逗子になるんじゃないですかね。表の写真に写っている海、逗子湾の西の端にある「大崎」という岬の先の海が、湘南なら一番きれいな海の一つだと思います。この辺をSUPで海上散歩も気持ちいいですよ。また、海水浴はちょっと、、、と言う方でも、逗子なら別行動でも楽しめます。映画好きな人なら、昭和初期か大正時代に戻ったかのような建物の、渋い名画座「CINEMA AMIGO」もあります。場所は逗子海岸から徒歩1分で、名画座なのに料金は映画ごとにかかって来ますが、ここもいいですよ。この建物は自然に溶け込んでいるので、すっかり見過ごしてしまいます。見つけられない映画館(笑)です。さて、前置きが長〜くなってしまいましたが、今月のオススメの1冊は、

原田マハ著『キネマの神様』です。実はこの本を読んで、映画の素晴らしさを再確認しました。あらすじは、ギャンブルと映画を愛する79歳のおじさん「ゴウ」が、映画ブログをスタートさせる。するとそこに1件のすごい書き込みが入る。映画をただこよなく愛するおじさん「ゴウ」と、絶対に覆しようのない深く内面をえぐる批評をする「Rose Bad」。この映画評論のガチバトルを楽しみに、アクセス数が急上昇。この対決の行方はどうなるんだろう? 最後までワクワクしっぱなしで一気に読んで元気を頂きました。そこで今回は、この「ゴウ」おじさんの初回の感動ブログをみなさんにご案内します。

### キネマの神様への報告①〜フィールド・オブ・ドリームス

本日、市ヶ谷のテアトル銀幕で観た映画、「フィールド・オブ・ドリームス」に、小生、心底痺れました。鑑賞後、いつまでも消えないあたたかい灯を、胸の奥に点してくれる。この映画はそう言う名作です。もえあがる恋の炎、めらめらと焼き尽くすスリルの焰、総じていい映画にはつきものではありますが、この映画のように、ぽっと点っていつまでもあたたかい、カイロのようなほのかに続く灯は、どんな人間をも安心させ、生の喜びを、切なさを、たくましさを思い出させてくれるのではないのでしょうか。

ケヴィン・コスナー扮する主人公レイが、自らが経営するアイオワのトウモロコシ畑で不思議な声を聞く。この声の持ち主は誰かはわからない。けれど風のなかに、彼は確かに聞く。「それを建てれば、彼がやって来る」と。レイは声に言われるままに畑を潰し、野球場を建ててしまう。そこに、かつて八百長事件で球界を追われた名選手シュレス・ジョーや往年の名プレイヤーたちのユウレイが現れて野球を始める。この夢のようなゲームは、レイと妻、娘にしか見えない、いまは隠遁生活を送る野球好きの作家や、メジャーリーグでわずか1イニング守備にただでリタイヤしてしまった町医者などが登場し、やがて本当の奇跡が起きる。アメリカならではの野球好きたちの夢物語です。あらすじだけ聞けば笑止千万、ユウレイと野球だなんて子供だましもいいとこだと思う人もいるでしょう。あるいは野球好きにはいい映画でも、野球なんて球を投げて棒で打つだけでしょと言う諸氏には退屈だと思われるかも知れない。

しかし本作は野球賛歌の映画である以上に、家族愛の物語なのです。野球選手になりそこねた父に、少年レイは夢を託されるも、やがて夢をあきらめる。その後父と息子は次第に距離を置き、そのうちに父は他界してしまう。レイは父と十分に交流できなかったことを、心の奥底でずっと悔やんでいるのです。少年の頃、なにげなく父としていたキャッチボールは、父を失ってしまったあとには、もう永久にかなうことのない夢になってしまったのです。破産の危機に苛まれたながらも、レイがユウレイたちのために維持した野球場に最後に訪れた奇跡とは、億万長者になることでも不老不死の命を授かることでもなく、死んだはずの父とキャッチボールをすることだった。小生はこの「父と子のキャッチボール」をラストに持ってきたところに、脚本兼監督のフィル・ロビンソンの、実にアメリカ人らしい、映画と野球と人生に対する深い愛情を感じます。

本作にはスリルも爆発もお色気も秘密も種明かしもない。極悪人も英雄もいない。けれどおそらくは私たちすべての心に住んでいる、ただひとりのヒーロー、「父親」が存在しているのです。

現実、全世界の父親たちの中には、ヒーローと呼べないダメ親父も多少はいるでしょう。(中略)それでもなお、人々は父親を思うとき、大きい、あたたかい、きびしい、やるせない、どうしようもないにかを感じずにはいられないはずです。母親にはどうしたって勝てないのが父親なのです。その父にはできて、母にはできないこと。いずれ「父」となる息子とのキャッチボールがそれなのです。

いかがですか? なんだか観たくなってきましたよね! 納得しますよね!! けれども正体不明の「Rose Bad」はこの評論をバツサリ斬るんです。みなさんならどう反論しますか? まとめ 小林義和

